

ホームビジットを開催しました 10月14日(月・祝)

杉並区交流自治体中学生親善野球大会のために来日した台湾の中学生が、杉並の中学生とそのご家族と共に時間を過ごすホームビジットを実施しました。今回は2018年以来6年ぶりの開催です。親善野球大会終了後、台湾の中学生30名が杉並の中学生14名とともに、グループに分かれてホストファミリーと夕刻のひと時を過ごしました。釣りを楽しめるレストランに行くグループや、食事と一緒にゲームセンターやダーツ大会、卓球などを楽しむグループもあり、各チームが工夫を凝らして台湾の中学生たちでしたが、ホストファミリーのおもてなしにより、集合場所に帰ってきた時にはすっかり打ち解けた様子でした。



ホームビジットの様子

子ども日本語学習支援ボランティア養成講座

「子ども日本語教室」で活動するボランティアの養成講座を11月11日(月)から12月16日(月)まで全6回開催しました。今回は第2回目をレポートします。

外国にルーツを持つ子どもに向き合うために 開催日：11月18日(月) 開催場所：杉並区交流協会

講師の高柳なな枝さん(地球っ子クラブ2000代表)は、さいたま市を中心に、保護者だけでなく地域の人たちを巻き込んで、外国にルーツを持つ子どもへの日本語教育を行っています。講座では、ワークショップも交えながら、豊富な実践例とともに、子どもたちを指導するうえで大事な心構え、関わり方、留意点、具体的な指導方法などを学びました。いま外国人が定住化の傾向にあり、外国にルーツを持つ子どもたちは、これからの日本を支えていく存在です。彼らには、日本語や教科の勉強だけではなく、母語・母文化に自信を持ってもらうことも必要です。そうした学びの場をつくるのが大事です。地域で子どもたちに接している受講生は、「増えている外国にルーツを持つ子どもたちが、どうすればまわりとコミュニケーションをとれるようになるかに悩んでいて、とても参考になった」と感想を述べていました。(広報S)



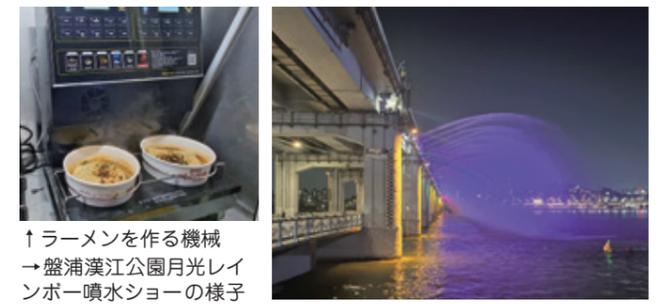
高柳なな枝さん

韓国レポート

アンニョンハセヨ。2024年7~12月まで派遣職員として、杉並区の交流自治体である韓国ソウル特別市瑞草区文化観光課で勤務している、杉並区文化・交流課の関根です。今回は私が体験した韓国独特の文化について2つ紹介します。

1つ目は「漢江ラーメン」という文化です。具体的には公園で漢江を眺めながらインスタントラーメンを食べることを指します。日本で言うピクニックのようなもので、公園近くのコンビニでラーメンを作って気軽に出来るのがポイントです。

そんな「漢江ラーメン」を楽しむときにお勧めしたい場



↑ ラーメンを作る機械
→ 盤浦漢江公園月光レインボー噴水ショーの様子

所が、瑞草区にある「盤浦漢江公園」です。4月~10月の間には「月光レインボー噴水」のショーも楽しむことができ、色とりどりの光と、水しぶきがとてもきれいです。皆さんも機会があれば「盤浦漢江公園」で「漢江ラーメン」を体験してみてください。

2つ目は大学修学能力試験(通称:スヌン)の受験者を応援する文化です。「スヌン」とは日本の大学入学共通テストのようなもので、毎年11月中旬に実施されます。個人的にスヌン当日の韓国で驚いたことがあります。それは、官公庁や企業の出勤時間を普段より1時間遅くしたり、一部バスや電車を増便したりして、受験者が試験に遅刻しないようにすることです。それでも間に合わない場合は、警察がパトカーを使い会場まで送迎します。

他にもリスニング問題を放送する時間は、試験会場周辺でのクラクション禁止や、飛行機の離着陸を一時中断するなどの規則を設けて、問題が聞き取れないことを防止しています。社会も一体となって受験生を応援することから、韓国では学歴が重視されていることを感じました。

Event Information from SACE 交流イベント情報 QRコードからご覧下さい。

杉並区人口 日本人 555,458人・外国人 22,283人・合計 577,741人 (11月1日現在)

杉並区交流自治体

- ・ウイロビー市(オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州)
- ・瑞草区(大韓民国ソウル特別市)
- ・台北市(台湾)
- ・名寄市(北海道)
- ・南相馬市(福島県)
- ・北塩原村(福島県)
- ・東吾妻町(群馬県)
- ・武蔵野市(東京都)
- ・青梅市(東京都)
- ・小笠原村(東京都)
- ・小千谷市(新潟県)
- ・忍野村(山梨県)
- ・南伊豆町(静岡県)

すぎなみ交流ニュース

Suginami Cultural Exchange News

第75号 2025年1月

스기나미 교류 소식
杉並的交流消息

発行：一般財団法人 杉並区交流協会 [Suginami Association for Cultural Exchange(SACE)]
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階
[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail : info@suginami-kouryu.org

<https://suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行◆ 協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。



目次

- まると台湾フェア「自然台湾」ほか 2
- 五感で感じる交流自治体 第2弾 福島県・北塩原村ほか 3
- ホームビジットを開催しました ほか 4

第22回 日本語スピーチ大会を開催します

発表者募集 日本語で発表する外国人の方を募集します!

対象：15才以上で日本語を母語としない方
テーマ：日本に来て感じたこと、自分の国のことなど
募集人数：10人程度
申込方法：申込フォームから→
締切：1月17日(金) (応募多数の場合は選考し、1月末までに連絡します。)

日時：2025年3月8日(土) 13:30~17:00
場所：杉並区役所 中棟6階 第4会議室 (杉並区阿佐谷南1-15-1)

観覧者募集 入場無料 事前予約制 申込方法：2月1日からホームページ(定員になり次第締め切り)



昨年の様子



昨年の最優秀賞イ・ビョンフンさん

外国人のための 無料専門家相談会 Free Professional Consultation for Foreign Residents

ビザ・結婚・離婚・仕事・年金・保険・税金に関わる問題について、弁護士などの専門家に相談できます。気軽に相談してください。無料。通訳あり。秘密厳守。

【日時】2025年2月8日(土) 13:00~16:00
【場所】杉並区役所中棟6階第4会議室(杉並区阿佐谷南1-15-1)
【専門家】弁護士、行政書士、税理士、社会保険労務士、臨床心理士(予定)
【通訳】英語、中国語、韓国語、ネパール語、ウクライナ語ほか
【申込み】1月26日(日)までにホームページから。(電話、メールも可。)
【その他】託児あり(1月26日(日)までに電話またはメールで予約)

★こまっていることを、そうだんできます。
★よやくしてください。
★ひみつをまもりまします。
★つうやくがいます。
★ほいくがあります。



日本語スピーチ大会・外国人のための 無料専門家相談会共通 問合せ・申込み 一般財団法人 杉並区交流協会 Tel : 03-5378-8833 (平日 8:30~17:15) E-mail : info@suginami-kouryu.org

まるごと台湾フェア「自然台湾」

今年のまるごと台湾フェアは11月16日(土)にセシオン杉並にて、台湾の自然をテーマに開催されました。開会式には今年新しく赴任された台北駐日経済文化代表処の李逸洋代表が来場され「これからも杉並区が台湾との交流を続けていくことを願います」と述べられました。会場では、四季の自然に目を向けた講演や展示、そしてその自然の下で育った台湾茶や大人気のグルメなどが台湾の魅力や再認識させてくれました。(広報I)

*講演「阿里山・豊かなヒノキの森林と阿里山鉄道」 (一社)台湾世界遺産登録応援協会理事・片倉佳史さん

台湾を代表する景勝地のひとつである阿里山は15の峰からなる山脈。世界遺産に登録されていないものの自然遺産と文化遺産(阿里山森林鉄道)の双方に登録されるに値すること。かつて30万本と言われていた樹齢千年超えのヒノキは伐採により激減し、1987年以降伐採禁止になったそうです。近年は失われた原生の森を復活させようと植樹活動が行われているとお話でした。



片倉佳史さん

*特別講演「個性豊かな台湾の四季」 在台湾作家・片倉佳史さん

台北市内の公園でも十数種の野鳥が観察でき、黒潮と中国沿岸からの寒流、モンスーン海流の潮目で魚が豊富といったお話をはじめ、日本と似て異なる台湾の四季をご紹介くださいました。台湾ではイチゴの旬は冬で、桜の開花時期が長いので桜とツツジが同時期に咲いている様子が見られるそうです。また、台湾のカブトムシは少し小さくて動きが素早いので、ゴキブリに間違われることもあるとか。



林太一さん

*ワークショップ

今年はお茶に関する2種類のワークショップが行われました。「台湾茶の楽しみ方」では、講師の林太一さん(HAPPY LEMON

日本代表)から試飲を交えて良質なお茶の見分け方や手摘みと機械摘みの違いなどを教えていただきました。「恵みの台湾茶」では、講師の張茹涵さん(茶藝者)の指導を受けての実習が中心。参加者は美味しいお茶のいれ方を体験しました。

*ミニステージ

まず、声楽家・張瑞銘さんの二胡弾き語りによる「台湾歌謡を歌おう」からスタート。「望春歌」や「雨夜花」など台湾歌謡の代表曲は、東京音楽学校への留学経験を持つ作曲家・鄧雨賢によるものだと教えていただきました。続く在日台湾原住民連合会の方々は今年も台湾原住民舞踊で華やかに場を盛り上げてくださいました。今年は、そのほか「台湾華語で教える台湾式二十四節気」と題して中国語教師である劉芸而さんが日台の習慣の違いを台湾華語とともに教えてくださる時間も。立春(節分)に日本は恵方巻を食べ、台湾は潤餅(ルンピン)という春巻き状のお菓子を食べるそうです。



張瑞銘さん



在日台湾原住民連合会の皆さん

そのほか、麺線や大根餅、腸詰、タピオカミルクティ、台湾カステラなどの台湾グルメの屋台やアクセサリーや書籍の販売ブース、屋台ゲームのコーナーもあり、さまざまな角度から台湾を知ることができました。(写真: イェブトゥッシュク・ヴィクトル)

“杉並さんぽ”で杉並の新たな魅力発見!

10月19日(土) 13:00~16:30 集合場所: JR阿佐ヶ谷駅

当日は穏やかな散歩日和で参加者は38名(子ども6名含む)。6つのグループに分かれ、各班には通訳と説明員を兼ねるボランティアが同行しました。杉並区交流協会と杉並区スポーツ振興財団が連携して開催された“杉並さんぽ”は今回で2回目。交流協会事務局が日頃から地域の中にネットワークを広げ、さまざまな人たちをつなぐハブになっていることを実感しました。(広報TS)

今回の主な訪問先は、神明宮と大田黒公園、そして中央図書館の3か所です。神明宮では、宮司さんから神社の由来や参拝方法について説明を受けました。寺と神社の違いについて質問した参加者に、宮司さんがいてねいに答えてくださり、日本社会の成り立ちを学ぶ有意義な機会になったようです。また、思いがけず、神明宮から参加者全員に金平糖をプレゼントしていただき、子どもたちは大喜び。

次の訪問先に向かう途中、川端商店街に隣接する寿々木園に立ち寄りました。住宅街にある釣り堀に参加者は興味津々。7~8名のお客さんがゆったりと釣り糸を垂れていて、「私もやってみたい」という参加者もいました。さらに住宅街を進むと日大相撲部の寮が見えてきます。寮生がお庭の掃除をしていました。敷地内には土俵もあり、タイミングが合えば練習も見学できそうです。

途中で二手に分かれて大田黒公園と中央図書館に向かいました。大田黒公園では茶道体験と園内散策を楽しみ、中央図書館では利用方法と施設案内だけでなく、楽しい交流空間づくりに取り組んでいるという担当者のお話が印象に残りました。ほとんどの参加者は初顔合わせでしたが、一緒に過ごす中で次第におしゃべりが弾むようになり、別れ際にそれぞれ連絡先の交換をしていました。“杉並さんぽ”から新しいネットワークが生まれたようです。



神明宮



大田黒公園では班ごとに散策

五感で感じる交流自治体 \ 第2弾 / 福島県・北塩原村

開催日: 9月18日(水) 会場: 阿佐谷地域区民センター

「オリジナルハーブティーをつくろう!」を開催。講師は Bandia Herb Garden の吉村愛さん。ハーブ栽培は主に父さんが担当し、愛さんはレストラン経営とネットでの広報を担当されています。豊富なハーブの知識と優しい語り口で、調理室が心地よい空間に変わっていききました(広報TS)。



講師の吉村愛さん(右)と北塩原村役場の職員

初めに役場の大島さんから北塩原村の気候や風土、そして4地区の特徴についてご紹介いただきました。会津山塩の源泉である大塩裏磐梯温泉の沸く大塩地区、アスパラやきゅうり、米などを栽培する農業が盛んな北山地区、磐梯山の噴火で形成された裏磐梯地区、そして朝晩の寒暖差を活かして高原野菜を育てている檜原地区。Bandia Herb Garden は裏磐梯地区にあります。寒暖差の大きさが香り高いハーブの生育にも適しているのだそうです。

次に吉村愛さんから9種類のハーブの特徴についてご説明いただき、実際に香りを確認しながら評価表を埋める作業を行いました。その評価表を参考にブレンドしたときの香りをイメージして、オリジナルハーブティーづくりにチャレンジ。最後に Bandia オリジナルブレンド「やすらぎ」とハーブクッキー、桜峠プリンをいただきながら一日を振り返るといふ、充実したプログラムでした。

北塩原村は東京から電車で3時間ほどの距離です。「近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください」(吉村愛)。



五感で感じる交流自治体 \ 第3弾 / 新潟県・小千谷市

開催日: 11月30日(土) 会場: 永福地域区民センター

米どころ新潟県のちょうど真ん中に位置する小千谷市のお米を使ったワークショップが行われました。まず小千谷市の山岸さんより、小千谷市では直径800メートルを超える世界一大きな花火が打ち上げられることや、泳ぐ宝石と言われる錦鯉が有名なこと、雪の上で気球があがるおぢや風船一揆、海藻が入ってこしが強いへぎそばなどの紹介がありました。

その後、老舗の竹内製菓さんより米菓についてのお話をうかがい、バーチャル工場見学をしました。米粉を混ぜて食感を変えたり、ゆっくり風をあて水分を飛ばすなど教えてもらった後、あられの味付け体験を行いました。

まず、袋にはいったあられの中にサラダ油を入れ、縦や横に振ってなじませます。その後チーズ、黒コショウ、塩、青のり、カレーを入れ、試食しながら自分好みの味付けをします。最後にできたあられの商品名を考え、シールを貼って自分のオリジナルのあられの完成です!参加者はお隣の人のあられも試食し、たっぷりあられをいただきました。(広報TI)



オリジナルあられ作成中!



お土産もたくさんいただきました

五感で感じる交流自治体 \ 第4弾 / 北海道・名寄市

開催日: 12月19日(木) 会場: セシオン杉並

「名寄市名誉もち大使」の水間さんと山家さんを迎え、餅つき体験と試食会を開催しました。名寄市は日本一の餅米生産量を誇り、北海道の大自然で育てられた餅米は品質が高く、時間が経っても柔らかさが持続するのが特徴です。

当日は大人10名、子ども5名の計15名が参加。もち大使が臼と杵を使って餅米を丁寧にこね、力強くつくことで美味しいお餅が完成します。大使の実演につづき、参加者も順番に餅つきを体験しました。

続いて、つくたてのお餅を使って鏡餅作りに挑戦。丸める作業は難しかったものの、参加者同士で協力し合い、立派な鏡餅が完成しました。

試食タイムでは「あんこ」「きなこ」「バター醤油」「お雑煮」など、さまざまな味付けでお餅を味わいました。中でも「バター醤油」が一番人気で、その美味しさに参加者も大満足の様子でした。

参加者からは「つくたてのお餅が美味しかった」「子どもと一緒に貴重な体験ができた」といった声が寄せられ、楽しく充実したイベントとなりました。(広報O)



参加者のみなさん